

イサク ⑤

□イサクの信仰の手本

1. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した。このとき、イサクは30歳代の壮健な青年であったが、父アブラハムに逆らわず、従い通した。
2. 父アブラハムと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。
3. イサクは、双子の息子エサウとヤコブをもうけた。出産のときに神は、アブラハム契約の継承者は弟のヤコブになるという預言を、妻リベカを通して与えていたが、イサクは兄のエサウの方を愛し、エサウを選ぼうとした。しかし、妻リベカと子ヤコブによる偽計事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、確信をもって、未来のことについてヤコブとエサウを祝福した。

□本日の内容：イサクの信仰の手本第3番です。双子の兄弟が誕生するときに与えられた預言に照らすと、成長した兄弟に対する父親イサクの態度は、方向性が違っていました。神のことは「兄は弟に仕える」でしたが、父親イサクは兄エサウが持ってくる獵の獲物を好んでいたため、兄の方を愛していました。

しかし、兄エサウは長子の権利を軽蔑して、弟ヤコブにそれを譲り渡すと誓いました。また、兄エサウは40歳でヒッタイト人の女二人を妻に迎え、彼女たちがイサクとリベカにとって悩みの種となって37年が過ぎました。

イサクが年老いて兄エサウを祝福しようとしたとき、妻リベカは夫を欺いてでもそれを止めようとしていました。

今回はその欺きを受けて、イサクが神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、確信をもって、未来のことについてヤコブとエサウを祝福したことを見ましょう。

(1) イサクの意向とリベカによる偽計（創27章1～17節）【前回の内容】

① イサクが年をとり、目がかすんでよく見えなくなったときのことである。

- イサクが実際に死去したのは、180歳。創世記の他の箇所と合わせてみると、このときイサク137歳。しかし、視力が衰えてほとんど見えなくなり、死期が近いと感じた。14年前に死んだ異母兄イシュマエルも享年137歳だった。
- このとき、エサウとヤコブは77歳。エサウは40歳で結婚したから、それから37年。イサクとリベカが、ヒッタイト人の嫁二人を悩みの種として、実に37年が過ぎていた。ヤコブは、まだ独身。

② 彼は上の息子エサウを呼び寄せて、「わが子よ」と言った。すると彼は「はい、ここにおります」と答えた。イサクは言った。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬかわからない。さあ今、おまえの道具の矢筒と弓を取って野に出て行き、

私のために獲物をしとめて来てくれないか。そして私のために、私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て、私に食べさせてくれ。私が死ぬ前に、私自ら、おまえを祝福できるように。」

- 「私自ら、おまえを祝福できるように」・・・イサクの意向は、双子の誕生時にリベカに啓示された神のみこころとは違う。
- アブラハム契約を継承する子への祝福を、「私の好きなおいしい料理」と引き換えに与える？ エサウが食べ物で長子の権利を売った軽率さに近い態度を感じるが、食べ物と飲み物を受け取って祝福を与える儀式的習わしが古代にあったことも事実。

③ リベカは聞いていた

リベカは、イサクがその子エサウに話しているのを聞いていた。それで、エサウが獲物をしとめて父のところに持って来ようと野に出かけたとき、(リベカは急いでヤコブを呼び寄せた)

④ リベカの決断

リベカは息子のヤコブに言った。「今私は、父上があなたの兄エサウにこう言っておられるのを聞きました。『獲物を捕って来て、私においしい料理を作ってくれ。食べて、死ぬ前に、主の前でおまえを祝福しよう。』

さあ今、子よ。私が命じることを、よく聞きなさい。

さあ、群れのところに行って、そこから最上の子やぎを二匹取って私のところに来なさい。私はそれで、あなたの父上の好きな、おいしい料理を作しましょう。あなたが父上のところに持って行けば、食べて、死ぬ前にあなたを祝福してくださるでしょう。」

⑤ ヤコブの心配

ヤコブは母リベカに言った。「でも、兄さんのエサウは毛深い人なのに、私の肌は滑らかです。もしかすると父上は私にさわって、私にからかわれたと思うでしょう。私は祝福どころか、のろいをこの身に招くことになります。」

母は彼に言った。「子よ。あなたへののろいは私の身にあるように。ただ私の言うことをよく聞いて、行って子やぎを取って来なさい。」

⑥ 偽計の準備

それでヤコブは行って、取って母のところに持って来た。母は、父の好む、おいしい料理を作った。それからリベカは、家の中で自分の手もとにあった、上の息子エサウの衣を取って来て、それを下の息子ヤコブに着せ、また、子やぎの毛皮を、彼の両腕と、首の滑らかなところに巻き付けた。そうして、自分が作ったおいしい料理とパンを、息子ヤコブの手に渡した。

(2) ヤコブによる騙しの実行（創世記 27 章 18～29 節）

- ① ヤコブは父のところに行き、「お父さん」と言った。イサクは「おお。おまえはだれかね、わが子よ」と尋ねた。ヤコブは父に、「長男のエサウです。私はお父さんが言われたとおりにしました。どうぞ、起きて座り、私の獲物を召し上がってください。そして、自ら私を祝福してください」と答えた。
- 「長男のエサウです」・・・原文は、「私は、エサウ、あなたの長子です」ヘブル語では、「私」は 2 種類。名前を強調するときに使う「私」と、資格や間柄を強調するときに使う「私」。ここでの「私は」は後者。
- ② イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね、わが子よ。」彼は答えた。「あなたの神、主が私のために、そうしてくださったのです。」そこでイサクはヤコブに言った。「近くに寄ってくれ。わが子よ。おまえが本当にわが子エサウなのかどうか、私はおまえにさわってみたい。」ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとして、「本当におまえは、わが子エサウだね」と言った。するとヤコブは答えた。「そうです。」
- 「そうです」・・・原文は、「私です。」ここは、名前を強調するときの私。
- ③ そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。わが子の獲物を食べたい。そして私自ら、おまえを祝福しよう。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。
- ④ 父イサクはヤコブに、「近寄って私に口づけしてくれ、わが子よ」と言ったので、ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクはヤコブの衣の香りをかぎ、彼を祝福して言った。
- ⑤ 「ああ、わが子の香り。主が祝福された野の香りのようだ。神がおまえに 天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を 与えてくださるように。諸国の民がおまえに仕え、もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。おまえをのろう者がのろわれ、おまえを祝福する者は祝福されるように。」
- 下線部は、アブラハム契約での族長への約束（12：3）

(3) 欺かれたことを知ったイサクの反応と、エサウへの祝福（創世記 27 章 30～40 節）

- ① イサクがヤコブを祝福し終わり、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐに、兄のエサウが獵から戻って来た。彼もまた、おいしい料理を作って、父のところに持って来た。そして父に言った。「お父さん。起きて、息子の獲物を召し上がってください。あなた自ら、私を祝福してくださるために。」
- ② 父イサクは彼に言った。「だれだね、おまえは。」彼は言った。「私はあなたの子、長男のエサウです。」イサクは激しく身震いして言った。「では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持ってきたのは、おまえが来る前に、私はみな食べてしまい、彼を祝福してしまった。彼は必ず祝福されるだろう。」
 - 「イサクは激しく身震いして」・・・これは怒りではなく、恐れ。神のみこころを再認識し、自分が神のみこころに反していたことを思い知って、激しい恐れを覚えた。
 - 「彼は必ず祝福されるだろう」・・・神のみこころを思い知って、ヤコブを祝福したことは撤回できないと悟った。
- ③ エサウは父のことばを聞くと、声の限りに激しく泣き叫び、父に言った。「お父さん、私を祝福してください。私も。」
 - 「声の限りに激しく泣き叫び」・・・原文は3段階、「エサウは泣き叫んだ、大声で泣き叫んだ、苦々しい泣き言を激しく叫んだ」。彼は、靈的祝福はどうでもよかった。物質的祝福、さらに軍事的優越性を切望していた。
- ④ 父は言った。「おまえの弟が来て、だましたのだ。そしておまえへの祝福を奪い取ってしまった。」
 - このイサクの発言は誤り。すでに長子の権利はヤコブに帰属していた。
- ⑤ エサウは言った。「あいつの名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけて、私の長子の権利を奪い取り、今また、私への祝福を奪い取った。」
 - 「あいつの名がヤコブというのも、このためか」・・・「ヤコブ」とは「かかどをつかむ者」という意味。出生時の出来事にちなむ名であるが、かかどをつかむという場合の二義的な意味「押しつける」をあてつけた。
 - 「二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった。」・・・一度目はエサウがヤコブに長子の権利を売り渡したことを指している。「奪い取った」というのは、うそである。エサウは譲ると誓った。
- ⑥ またエサウは言った。「私のためには、祝福を取っておかれなかったのですか。」イサクは答えてエサウに言った。「ああ、私は彼をおまえの王とし、すべての兄弟を彼にしもべとして与えた。また穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにした。わが子よ。おまえのためには、いったい何ができるだろうか。」エサウは父

に言った。「お父さん、祝福は一つしかないのですか。お父さん、私を祝福してください。私も。」エサウは声をあげて泣いた。

- イサクの応答「いったい何ができるだろうか」・・・撤回できない。当時の習慣では、父親がいったん口にした遺言は撤回できない。

⑦ 父イサクは彼に答えた。「見よ。おまえの住む所には、地の肥沃がなく、上から天の露もない。おまえは自分の剣によって生き、自分の弟に仕えることになる。しかし、おまえが奮い立つなら、おまえは自分の首から彼のくびきを解き捨てるだろう。」

- 「おまえの住む所には、地の肥沃がなく、上から天の露もない」・・・原文では、「肥沃な地から離れておまえは住むだろう。天の露を受ける地から離れて。」ヤコブに与えた祝福（28節）の反対側の内容。エサウは約束の地を相続しない。エサウは約束の地の外側でしか住めない。

- エサウへの祝福には、エサウから出る民族「エドム」についての3つの事柄
 - 自分の剣によって生きる＝武力によって生きる
 - イスラエルに従属する（Iサム14：47、IIサム8：14）
 - しかし、そのくびきを解き捨てる（II歴21：8～10、II列16：6、II歴28：16～17）ヘロデ大王（マタイ2：1～18）は、エドム人

(4) イサクからヤコブへのアブラハム契約の継承（創世記27章41節～28章4節）

① エサウの殺意とリベカの対応「私の兄ラバンのところへ逃げなさい」（27：41～46）46節 リベカはイサクに言った。「私はヒッタイト人の娘たちのことで、生きているのがいやになりました。もしヤコブが、この地の娘たちのうちで、このようなヒッタイト人の娘たちのうちから妻を迎えるとしたら、私は何のために生きることになるのでしょうか。」

② 父イサクからヤコブへ、命令と祝福（アブラハム契約の継承）（28：1～4）

イサクはヤコブを呼び寄せ、彼を祝福し、そして彼に命じた。

「カナンの娘たちの中から妻を迎えてはならない。さあ立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻を迎えなさい。

全能の神がおまえを祝福し、多くの子を与え、おまえを増やしてくださるよう。そして、おまえが多くの民の群れとなるように。神はアブラハムの祝福をおまえに、すなわち、おまえと、おまえとともにいるおまえの子孫に与え、神がアブラハムに下さった地、おまえがいま寄留しているこの地を継がせてくださるよう。」

ここに至って、ついに、イサクは神のみこころと同じになった。

イサクは神の選びを認めた。